

年 組 名前：

早めの行動を意識 避難は明るいうちに

主な台風対策

- ◆ 自宅の周りに飛び散るような物があれば室内に入れるか補強、固定
- ◆ ハザードマップで洪水や土砂災害の危険を再確認
- ◆ 避難は明るいうちに。行政からの避難準備情報や高齢者等避難開始、避難勧告がでたら即行動
- ◆ 冠水した道路、田畑、河川には絶対に近寄らない。冠水した場所を避難する際は長靴よりスニーカーの方が安全
- ◆ 垂直避難はできる限りコンクリート構造や鉄骨構造など頑丈な建物へ
- ◆ 避難する場合、行方が分かるよう玄関ドアに連絡先などを書いて表示しておくか「避難済み」と書いて貼っておく

(NPO法人災害・防災ボランティア未来会による)

台風の備えでまず考えたいのが、注意を促す。強風対策。ベランダや、扉がない倉庫にある植木鉢や自転車、看板などは室内に入れるか、しっかりと固定。自転車などはあらかじめ倒しておくこと。屋根瓦やトタンなどの屋根材がはがれたり、固定金具が取れたりしていないか、事故に十分気を付けながら事前に確認しておく。

洪水や土砂災害に対しては、市町村から配布されているハザードマップで危険箇所を再確認。冠水した道路や田畑、河川には近寄らない。山下さんは「ハザードマップは危険度を表すものであって、安全性を表すマップではない」とも呼び掛けている。

「台風の備えでまず考えたいのが、注意を促す。住んでいる地域の防災(災害情報)メールなどは受信できるような事前に登録する。テレビやラジオ、ネットなどで配信される正確な情報をしっかりと把握し、冷静な判断と早めの行動を意識したい。」

山下さんは「日没後の避難は危険なため、数時間先を見越して明るいうちに避難することが大切」と話す。近所に住んでいる高齢者や小さな子ども、妊婦がいる家庭など、避難行動を単独もしくは安全にできない人に対して、「ご近所同士の『共助』『おたがい様の助け愛』をお願いしたい」と協力

台風備えて守る

本格的な台風シーズンを迎えた。昨年10月の台風19号接近時は山梨県内に初めて大雨特別警報が発令され、土砂災害や河川の増水が発生、多くの人が避難したのは記憶に新しいところだ。強風や大雨、停電などどう備えたらいいのか。被災地支援や地域防災などに取り組む、NPO法人災害・防災ボランティア未来会の山下博史代表に聞いた。

(杉原みずき、土屋真佑子)



山下博史代表

(2020年9月20日付 山梨日日新聞 13面)

問1

台風による強風や洪水、土砂災害への備え・対応などについて、記事の内容と合っているものを①～④から1つ選んでください。

- [] ① ハザードマップは安全性を表すものである。
- [] ② 避難する場合は夜明けごろ避難するのがいい。
- [] ③ ベランダなどにある植木鉢や看板などは室内に入れるか、しっかりと固定しておく。
- [] ④ 災害時は「共助」より「自助」の方が大切である。

問2

あなたは、台風などの情報を得るために最も利用しているのは、①～⑤のうちどれですか。1つ選んでください。

- [] ① テレビ
- [] ② 新聞
- [] ③ インターネット
- [] ④ ラジオ
- [] ⑤ 地域の防災行政無線放送

問3

あなたは、災害への準備や発生時の対応などについて家族の間で決めていることがありますか。あれば、具体的に書いてください。

.....

.....